

チームオレンジ ~ このまちで自分らしく生きていく ~



1. 基本情報(令和7年1月現在)

市・町名	島原市		
人口	高齢者人口	高齢者率	面積
41,974	15,570 人	37.10%	82.96km ²

2. チームの概要

チーム名	チームオレンジ島原「お城の会」		
開始時期	2023年 10月 ~		
実施主体	☐ 市町 ☒ 地域包括支援センター ☒ 住民・ボランティア ☐ 社会福祉協議会 ☐ その他		
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員(島原市地域包括支援センター)		
メンバー構成	認知症サポーター(お城の会会員、ボランティア)、認知症当事者、認知症地域支援推進員、地域包括支援センター		
活動頻度	・お城の会 定例会 1回/月(第2木曜日) ・ワイワイカフェ 2回/月(第2金曜日・月末月曜日) ・お城の会 講演会 1回/年		
チームオレンジの類型	☐ 第1類型 共生志向の標準タイプ ☒ 第2類型 既存拠点活用タイプ ☐ 第3類型 拠点を設置しない個別支援型タイプ ☐ その他		
チームオレンジ三つの基本について	☒ 3つの基本を満たしている ☐ 3つの基本は満たしていないものの仕組みが構築されている。		
運営財源	☐ 市町からの委託 ☐ 市町からの補助 ☒ 会費・参加費 ☒ その他 (認知症カフェ事業補助金) 上記の財源 ☐ 市町一般財源 ☐ 地域支援事業交付金 ☐ その他 ()		

3. チームオレンジの設置に至ったプロセス

平成23年6月に認知症の人と家族の会長崎県支部「島原お城の会」が発足。認知症の理解を深め、認知症の人とその家族、関係者への相互支援と地域福祉の向上を図ることを目的とした会である。月に1度の定例会と月に2度の認知症カフェを開催。また、年に1度講演会を開催し、会員による介護体験談発表と認知症をテーマとした講演を講師に依頼している。

会員やボランティアはもともと数年に1回受講していた認知症サポーター養成講座に加えて、令和5年10月にステップアップ講座を受講した

4. 活動内容

ともに励まし合い助け合って「認知症になっても安心して暮らせる社会」を目指している。

定例会は月に1度森岳公民館で開催。参加者の近況報告や悩みを話しながらそれぞれがアドバイスをするなど和気あいあいとした雰囲気で行っている。

認知症カフェは月に2度、偶数月は白山公民館、奇数月は霊丘公民館で開催している。定例会では3月に来年度の年間計画を立てて活動内容を計画しており、体操やレクリエーションのみならず、勉強の場として、成年後見、交通安全、消費者被害など様々な講師へ講話を依頼し学びを深め勉強会の実施

年に1回の講演会の実施している。今までされた介護の実際や経験豊富で対応されてきたことを市の広報紙にピックアップされ、一般の方にも知ってもらう機会も得た。

5. 活動を進めて行く上で工夫したこと・配慮したこと

これまで定例会や認知症カフェなどの活動から足が遠のいた参加者に対して会員やボランティアが連絡や自宅訪問を行い声かけや近況確認を行っている。また、毎月初めには定例会や認知症カフェの日程や内容を記したハガキを作成し郵送している。

定例会や認知症カフェの開催日には公民館入り口に旗を立てていつでも誰でも参加できるよう目印としている

6. ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

令和5年10月に県すこやか財団 オレンジチューター、チームオレンジ勉強会及びステップアップ講座を島原地域市町村圏組合介護保険課と島原市が共同開催し、お城の会会員とボランティアも受講した。さらに、メンバーの中には勉強意欲があり令和6年11月のオレンジチューターへ参加され、認知症について深められている

7. 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

【効果】

会員の多くが介護を経験されており、参加者の悩みに対してもこれまでの経験を踏まえたアドバイスをすることができている。また、認知症カフェ開催時はボランティアの参加も多く運営協力している

【課題】

会員の年齢層が高齢化しており、新たな参加者やリーダーとなりうる人材が不足している。

まだ認知症の人と家族の会があること自体や「お城の会」という言葉は知っていても活動内容を知らない島原市民も多く、周知活動を行う必要がある

8. チームのアピールポイント

活動歴が長くベテランの参加者も多いため、参加者も安心して参加できる体制が整っている。少人数ながら和気あいあいとした雰囲気で行っている。

9. 今後の活動について

まだ認知症の人と家族の会があること自体や「お城の会」という言葉は知っていても活動内容を知らない島原市民も多いため、周知活動を行いながら認知症の人が住み慣れた地域でその人らしく生活できるよう、認知症の理解を広め、地域住民がともに繋がり合う、認知症バリアフリーの街を目指していきたい。